当市の地域医療の現状と考え方について

斉藤　貢一　議員

質問 館林市は同じ医療圏内にある太田市と比べて、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患等による死亡率が極端に高くなっていますが、その原因について伺います。

答 不明な点が多いものの本市よりも太田市の受診率が一部を除き極めて高いことから、生活習慣病の予防のための生活習慣と健康への関心度が鍵となるのではないかと考えております。

質問 館林厚生病院は地域医療支援病院として位置づけられていますが、診療科目の不足や、かかりつけ医からの紹介状がないと外来が抑制されるなど、階層的な医療構造が問題となっています。そうした中で、他県とも隣接する本市の地域性により医療の広域連携体制の構築が必要であると考えますが、どのような広域医療連携が取られているのか伺います。

答 切れ目のない医療等の提供体制を構築するため、太田・館林地域保健医療対策協議会が設置され、病床の機能分化と連携など、地域の実情に応じた方策の方向性を検討しております。また、両毛広域医療連携連絡会議や両毛地域五病院小児科意見交換会においても、両毛地域の自治体や病院などと情報交換が行われており、圏域を越えた連携体制の確立が図られております。

質問 本市では救急時の受入態勢や診療科目別等の具体的な医療連携が構築されていないと思いますが、市民にとっての医療の安心は、身近で情報のある信頼できる病院で診察や治療を受けられることです。医師不足は急に解消されるものではありません。地域の人材を地域資源として生かしながら、今の医療人員の中でスムーズな医療体制を構築すべきであると考えますが、市長の考えを伺います。

答 医療従事者の皆様の知見、そして私どもの力を寄せ合いまして、住民目線で、また患者目線であることをお互いに意識しながら一致結束して、地域医療体制の構築を図っていくとともに、市も努力していきたいと考えております。

地域医療について問う

渡辺　充徳　議員

地域医療の現状について

質問 国の新医師臨床研修制度に起因して、医師不足、医師偏在が生じましたが、地域の医師数や診療科の推移についてお尋ねします。

答 新医師臨床研修制度による影響を受けたのは館林厚生病院であります。厚生病院の医師数は、制度導入前の平成14年は47名でしたが、現在は39名までに減少しており、診療科目も産科、形成外科、精神科、小児科、整形外科が縮小または休診となりました。

寄附講座について

質問 寄附講座は、民間企業や行政機関などからの寄付金などによって大学などに開設される教育研究のための講座を指しますが、医師不足の地域において寄附による大学の講座を開設することにより、そこに大学の教員や研修医、医学部生などが集まり、事実上の医師不足対策が図られます。

土浦市地域医療教育講座では効果として診療科目は平成23年の18診療科が、平成28年には26診療科となり、医師数は平成23年の25名が平成28年には47名と増加しています。

寄附講座開設に関する考えについてお尋ねします。

答 当地域は群馬大学医学部附属病院から遠く離れており、講座の開設が可能であるかどうか、財源、例えば年間5千万円であるとすれば、5年間で2億5千万円の費用がかかります。

今後、先進自治体の事例を含め、調査研究をしてまいりたいと考えております。

地域医療を守り育てる条例

質問 安心できる医療体制を確保するために市、医療機関、市民がそれぞれの立場で果たすべき役割を明確化し、協力して地域医療を守り育てることを目的とする条例制定の考えについてお尋ねします。

答 本市では、お医者さんマップなどを作成し、かかりつけ医の推奨や適正受診の啓発に努めており、現在、条例を策定する考えはありませんが、市民がみずから行っていくという機運が高まった段階でやっていきたいと考えております。